

令和元年度 中央区立久松幼稚園 自己評価報告書

中央区立久松幼稚園 住所 東京都中央区日本橋久松町7-2

園長 太田 禎子

幼児数 184名 学級数 8 教員数 10名 職員数 6名

教育目標② 様々な活動の中で、幼児一人一人が生活に必要な習慣や態度を形成し、伸び伸びと生活する。

人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的な生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。

- たくましい子 ・心身ともに健康な子を育てる。
- 進んでやる子 ・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。
- 心豊かな子 ・思いやりの心を持ち、心豊かな子を育てる。

令和元年度の重点 豊かな心と健やかな体の育成（連続性のある久松の教育を推進）

重点目標1

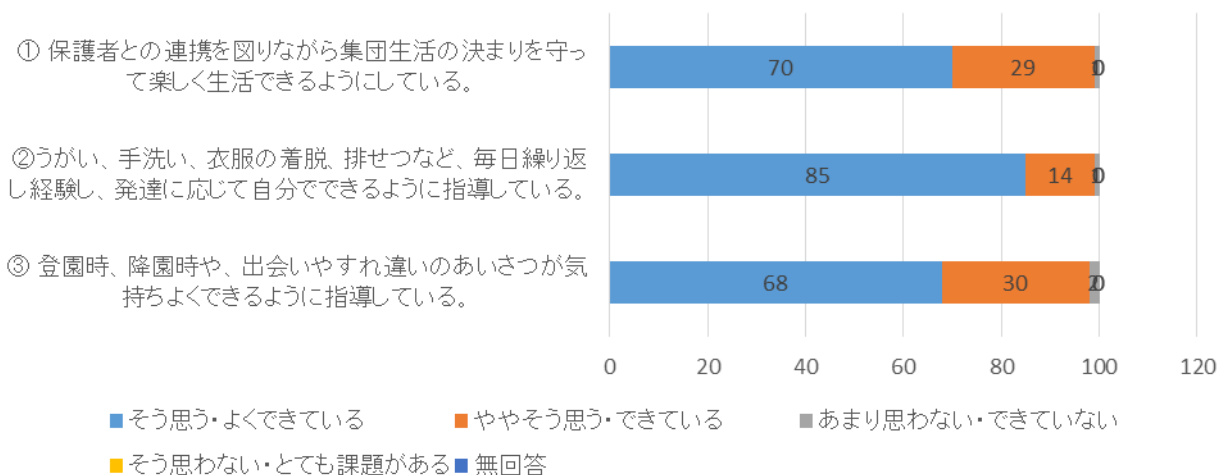
様々な経験を積み重ね、必要な習慣や態度を身に付け、自分から進んで健康で豊かな生活をつくり出す力を養う。（道徳性の芽生え、規範意識、自立心の芽生え）

評価項目：

- ① 保護者との連携を図りながら、幼児が温かく、規律ある幼稚園生活を送れるようにする。
- ② 様々な活動の中で、幼児一人一人が生活に必要な習慣や態度を形成し、伸び伸びと生活する。
- ③ 多様な人と関わる場であいさつをする心地よさを味わえるようにする。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価8割以上）

保護者アンケート 重点目標1



重点目標 2

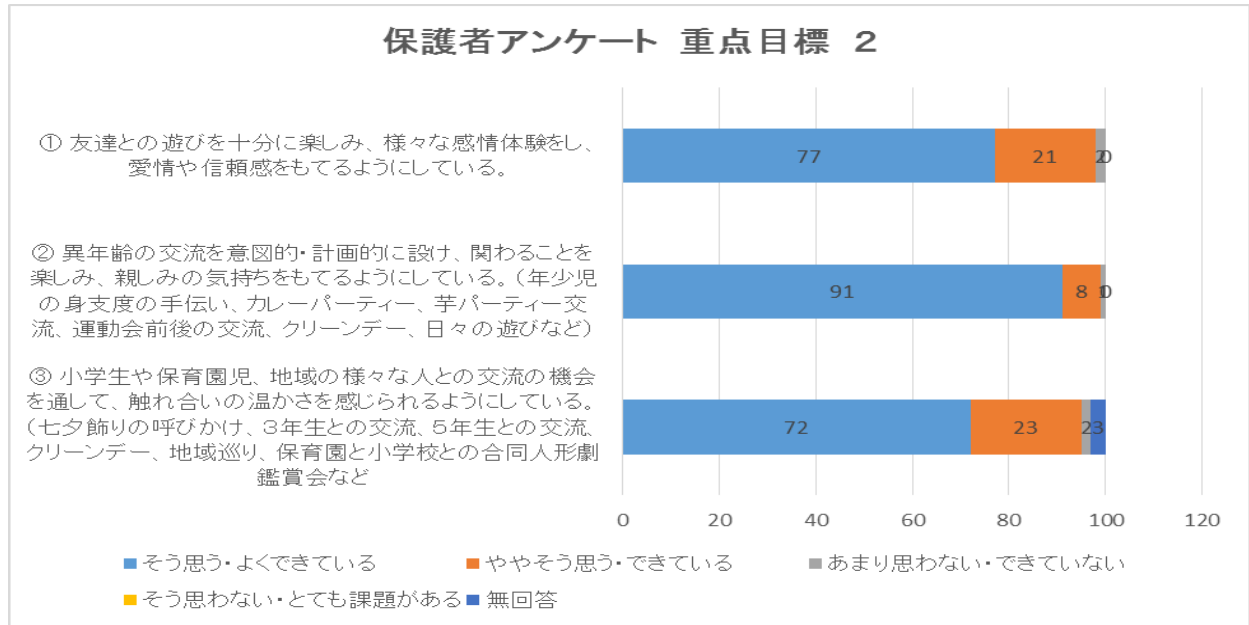
学級・学年を超えた関わりがもてるような交流を充実させ、様々な感情体験をしたり触れ合いの温かさを感じたりして、思いやりの心を育む。

(多様な関わり、思考力の芽生え、協調性、言葉による伝え合い、認め合い)

評価項目：

- ① 友達との関わりを通して様々な感情体験をし、愛情や信頼関係をもつ。
- ② 学級・学年を超えて、異年齢児と関わり、思いやりの気持ちや親しみの心をもつ。
- ③ 小学生や保育園児、地域の方等様々な人と関わり、親しみや感謝の気持ちをもつ。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価 8 割以上）



重点目標 3

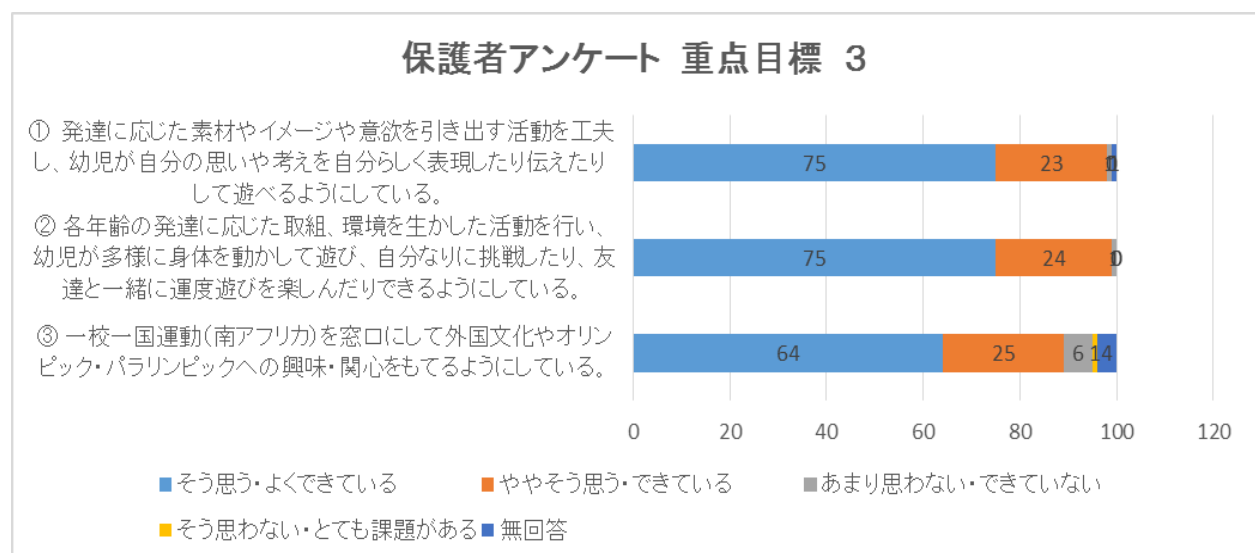
主体的に多様な運動遊びや、思いを豊かに表現する遊びをし、たくましい心と体を育成する。

(協調性、道徳性の芽生え、製作や体の動きによる表現、言葉による伝え合い)

評価項目：

- ① 自分なりに考えて工夫して遊び込んだり、友達とイメージを伝え合ったりして遊ぶ経験を積み重ねる。
- ② 幼児が主体的に自分の体を十分に動かし、多様な運動遊びを楽しもうとする。
- ③ オリンピック・パラリンピック教育（健康と体力、国際理解、人権教育）を推進する。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価 8 割以上）



重点目標 4

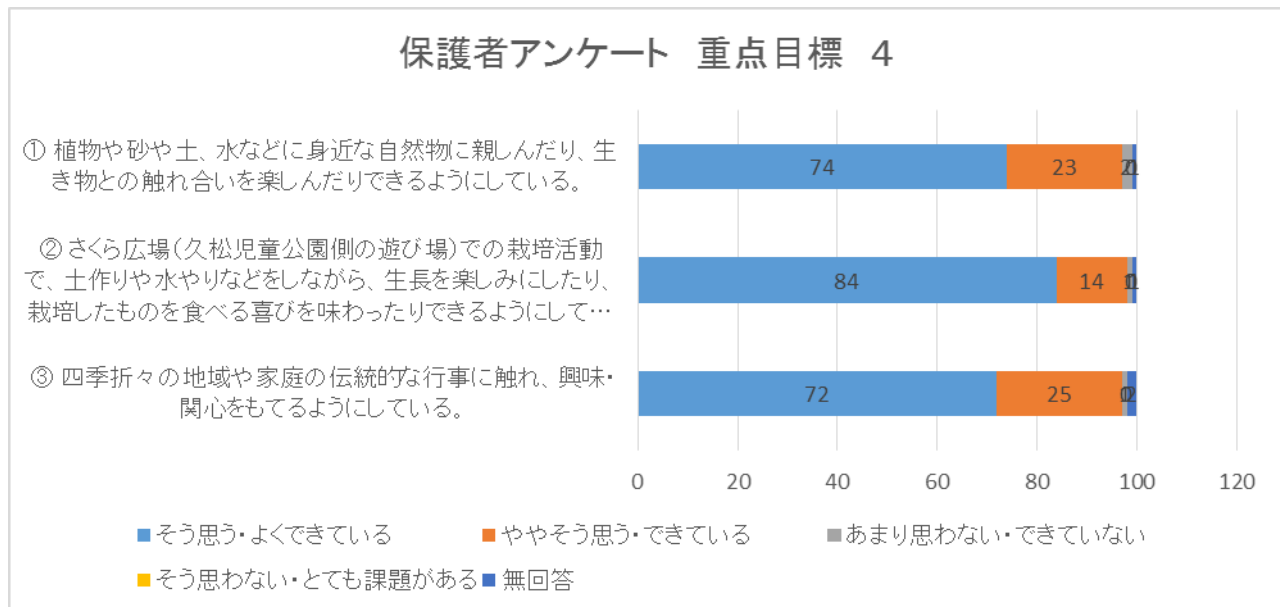
栽培活動、食育、伝統行事を積極的に取り入れ、幼児の生活や心情を豊かにする。

(豊かな心と健やかな体、自然との関わり、豊かな感性と表現)

評価項目：

- ① 栽培活動や自然物との触れ合い等の直接体験を通して心を動かす経験をし、様々な事象に興味や関心をもつ。
- ② 楽しく弁当を食べること、野菜を育てて食べることなどを通して食育を推進する。
- ③ 伝統行事を通して季節感を味わったり、様々な人と関わったりして豊かな心情を育む。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価8割以上）



教員・保護者のアンケート結果から分かったこと・今後に向けて

1 重点目標の達成状況と取組状況

重点目標 1

- ・発達に応じて学級の友達、学年、また園内で気持ちよく安全に過ごすためにはどうしたらいいか、その都度子どもたち自身が考えられるようにさらに指導の充実を図る。
- ・時間を守る・挨拶を交わす・互いに譲り合うなど、大人が率先してモデルとなる姿を子どもたちに見せることが大事である。
- ・生活習慣については、園児が登降園時に園服、園帽子をしっかり身に付け、自分の持ち物は自分で持つことや、手洗いうがいの徹底や無理をしないなどを学級で指導するとともに、家庭と連携していく。
- ・保護者の方からは、行き帰りに他の家族と挨拶を気持ちよくできていなかったり、公園などでご自分のお子さんを見ていなかったりすることがあるという様子を嘆かれている声があった。
- ・自転車の駐輪、ベビーカーや靴の置き場などは、安全面と、地域で共に生活することや集団生活のルールとして、引き続きマナー徹底をお願いしていく。
- ・降園時（特に雨天時）の連絡事項が聴きにくいという声が上がったので、伝え方について工夫して改善していく。

重点目標 2

- ・幼稚園での異学年との触れ合い、学び合いは本園のもっとも大事にしているところであり、今年度評価が上がったのは、保護者にも理解されていた。
- ・行事だけでなく、遊びの中でお店屋さんやお化け屋敷など、誘い合っている姿が多く見受けられた。特に本年度はサクラ広場などを中心に異学年の幼児が関わったり、教え合ったりして遊ぶ姿が多く見られた。さらなる充実に努めたい。
- ・学級、学年を超えて情報交換をし、教師が遊びの仲間になって入っていったり、互いの楽しい遊びを気付かせ合ったりしたことで、自然なかかわりを楽しむことができた。
- ・2月の年長組の「忍者ランド」の経験を通して、刺激をたくさんもらった年少・年中組が自分の遊びの中に取り込んで楽しんでいる。
- ・小学校との交流が充実していた。今後も教員同士の連携を大切にしながら進めていきたい。

重点目標 3

- ・「健やかな体」という点から、今年度も運動遊び推進園として、多様な動きが経験できるように環境を工夫してきた。ボール遊びの計画的な取り組みが不十分であった。
- ・今年度は、夏休みに保護者の方にも御協力いただき、「ボールを使った遊び」や「触れあい遊び」を中心に、親子で身体を動かす遊びにチャレンジしていただいた。場や時間に制限があり、取り組めない中でも、何気ないスキンシップや、ちょっと戸外に出てみようというきっかけとなったと思う。
- ・子どもたちのやってみようとする姿や成長の様子に気付くことができたという感想も保護者からあった。
- ・「豊かな表現」という視点から今年度園内研究の副主題を～季節を感じながら遊ぶ子どもを育てる～として研究を進めてきた。昨年度の重点目標の反省から、今年度は特にサクラ広場の遊び環境を見直した。
- ・一校一国運動の対象国「南アフリカ共和国」の文化に触れる機会を設定して、アフリカの音楽やアートに親しみ、表現を楽しむことができた。ラグビーワールドカップ・ジャパンをきっかけにして園児はいろいろな国や地域に関心を寄せ、保育環境にも取り入れて、様々な話題、遊びで楽しむことができた。来年度の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に期待をつなげたい。

重点目標 4

- ・今年度も栽培活動においては保護者にも伝わりやすく、評価がとても高かった。
- ・嫌いな野菜も自分たちで育てて幼稚園で調理してもらったものは喜んで食べていた。野菜に関心をもったり、食べられたことの自信につながったりした。
- ・昨年度の反省からサクラ広場での環境の見直しを行ったことで、幼稚園生活全体において、今まで以上に四季を感じることへの意識が高まったように感じる。

2 その他

○保育の充実に向けて

- ・幼児期ならではの遊び、生活を大事にしながら保育に努めてきた。その中で、自然に親しみ、季節を感じられるようにという視点から、全教職員で保育の充実に努めてきた。保護者への発信面ではホームページ、学級懇談会などでの写真の活用などを工夫してきた。教育内容が伝わるように努め、家庭との連続性のある生活となるようにしていく。

○保護者との連携について

- ・今年度の保護者へのアンケートの回収率が100%であったことは大変うれしく感じている。「共に子育て」の意識を家庭と幼稚園とで共有できたと思っている。保護者一人一人との心を通わせた信頼関係を築いていきたい。

令和2年度に向けた取組

- 1 本年度に引き続き、新教育要領に基づき、遊びを通しての総合的な教育、という幼稚園教育の基本を大切にしていく。全教職員で幼児期にふさわしい生活、遊びにおける指導・環境の工夫について研究と実践に努める。
- 2 運動遊び推進園として、計画的に多様な運動遊びを取り入れる。令和元年度の実践を基に、思わず体を動かしたくなるような遊具や用具を工夫し、体を動かすこと十分に楽しめるようにする。特に発達に応じていろいろなボール遊びを経験できるようにしていく。
- 3 幼稚園での異学年との触れ合い、学び合いは本園のもっとも大事にしているところであり、今年度はサクラ広場の遊びにおいて、新たなかかわりの芽が生まれた。この実践を生かし、さらにサクラ広場や室内の遊びでの触れ合いを通して、様々な感情体験ができるようにしていく。
- 4 保護者や地域への保育内容のわかりやすい発信を工夫し、家庭と幼稚園とが「共に子育て」という意識をもって、子育てを楽しめるよう、工夫しながらさらなる連携に努めていく。